

## 第6回 「ASEAN スマートコールドチェーン構想」検討会 議事概要

1. 日時  
令和2年11月27日（金）14:00 ～ 16:00
2. 場所  
TKP 赤坂駅カンファレンスセンター
3. 出席者  
第6回「ASEAN スマートコールドチェーン構想」検討会 出席者名簿を参照
4. 議事概要
  - (1) 冒頭挨拶  
事務局を代表して谷合国土交通省大臣官房参事官（国際物流）より冒頭挨拶を行った。
  - (2) 物流事業者による重点5か国における事業展開と課題について  
鴻池運輸株式会社よりタイ及びベトナム（資料1）、セイノーホールディングス株式会社よりインドネシア（資料2）、郵船ロジスティクス株式会社よりマレーシア及びフィリピン（資料3）について、それぞれ各社の事業展開の状況と直面している課題の説明が行われた。
  - (3) コールドチェーン物流の展開促進に資する最近の取組について  
国土交通省より「JSA-S1004の普及に向けた取組について」（資料4）、経済産業省より「標準化の戦略的意義及び国内外の動向」（資料5）、農林水産省より「ASEAN地域を対象としたFVC構築に関する取組とコールドチェーン物流サービスとの連携」（資料6）、環境省より「環境インフラ海外展開の動向と支援について」（資料7）、産業競争力懇談会（ヤマトホールディングス株式会社）より「国際規格を活用した海外物流市場の健全な発展の促進」（資料8）に基づき説明が行われた。
  - (4) 「ASEAN スマートコールドチェーン構想」におけるビジョン及び戦略に基づく関係省庁・機関の取組について  
事務局より「ASEAN スマートコールドチェーン構想におけるビジョン及び戦略に基づく関係省庁・機関の取組」（資料9）に基づき、2019年度及び2020年度の取組（予定含む）の説明を行った。
  - (5) 質疑応答  
各委員からの質疑応答等は以下の通りである。

**【質疑】**

新型コロナによる各国におけるコールドチェーン物流サービスへの影響及び ASEAN へのサプライチェーン多元化の動きの実態について、各社のご意見を伺いたい。

**【応答】**

- タイにおいては、観光客の減少に伴い、外食産業向け加工食品の荷動きが減り、倉庫の回転率も落ちている。ベトナムについては、特段大きな影響はみられず、水産品関係は堅調な動きを見せている。
- インドネシアでは、原材料輸送においては、多少の影響はあるものの、さほどダメージは大きくない。コールドチェーン輸送については、外出規制により外食向け冷凍食品の輸送量が減少した。
- 世界全体として、自動車・電気関係は大きな影響を受けた。一方で、あらゆる物を扱う EC 分野では、需要は大幅に増えたと認識している。
- サプライチェーンへの影響に関しては、日本国内で感染が拡大した今春～夏にかけては生産拠点の移転という声が多く聞かれたが、最近では中国から北米への海上コンテナ輸送量が過去最高となるなど、やはり中国の存在は大きいと感じている。中国は、日本にとって一番のマーケットであり、サプライチェーンはマーケットの近くに構築されることが最も効率的とされていることから、コロナ禍がきっかけで部品や原材料の供給者が ASEAN へ移管することはあまり想定していない。生産拠点が中国一辺倒である現状を見直す必要性は引き続きあるものの、中国の重要性には変化がなく、状況が劇的に変わることはないのではないかと。

以上